



NUTEC NC-110/NC-111 BRAKE & PARTS CLEANER

Produced by NUTEC

Rosso SPECIAL ITEM TEST

アイテム性能テスト

ガンコな油汚れもサッと落とすマルチクリーナー。

ど
んなことにも何をしても、これはつき物というアイテムが存在するが、それがメンテナンスとなると、一般的にはやはり「ブレーキクリーナー」や「パーツクリーナー」と呼ばれるスプレー式洗浄剤がそんなアイテムといえるだろう。ホームセンターやカーショップの店頭を覗くと、大柄な大容量缶が多数ならんでいるが、こんなところをみても、いかにこの手のスプレー式クリーナーを使う機会が多いかということがわかる。

しかし、店頭に並べられているクリーナーを実際に使用すると、思ったほどの洗浄力はなく、大容量とはいえど、ほとんど身だけがなくなっていくようなものもしばしば見受けられる。これではどんなに容量の大きい缶入りクリーナーであっても、無駄に液剤とお金を消費するばかりだ。

そこで今回はそんな無駄な浪費を防ぐ意味をこめて、ブレーキ&パーツクリーナー、NUTEC NC-110 & NC-111を紹介したい。これは今までずっと追ってきたNU

TEC&インターセプター・シリーズのスペシャルアイテムテストレポートでも、アレコレと撮影時クリーンナップに活躍した、いってみれば影の主役(?)といえるアイテムだ。

実際、前々回のNC-81プラスオイルシーリング(シールやパッキンからの漏れ止めやオイル下がりの抑制に絶大な効果を発揮するオイル添加剤)の取材時、オイル漏れが止まった証明としてテスト車両のメルセデス・ベンツ300E、24のアンダーカバーを洗浄し、それが再度オイルまみれにならない事実を証拠サンプルとして使ったが、このメルセデスのアンダートレイに長年降り積もったオイル漏れ汚れを見事に取り去ったのも、このNC-110 & NC-111である。これなどはコンパウンド入り洗剤でゴシゴシとやってもほとんど落ちようとしなかった難物だったが、しかしNC-110 & NC-111はまさに目から鱗が落ちるかのような素晴らしい洗浄能力を発揮。見る見るうちに積もったオイル汚れをクリーンナップしていったのだ。

エンジンまわりに付いた油や、ホイールの汚れなど、水で洗ったくらいじゃ簡単に落ちない頑固な汚れを簡単に落とすクリーナーがNUTECからリリースされている。今回はこのアイテムをテストした。

神藤 宏●文 text by Hiroshi Kando
森山俊一●写真 photographs by Toshikazu Moriyama
ニューテックジャパン●協力 cooperation by NUTEC JAPAN ☎045-929-1610

テストアイテム紹介

幅広い用途で使える万能アイテム。

NUTEC NC-110(速乾性)
NUTEC NC-111(半速乾性)

価格:オープン NET840ml



NUTECといえば超高性能オイルのブランドとして有名だが、それだけでなく、高機能添加剤など、ケミカル用品でも高性能商品を多数持っている。今回紹介するのは、これまでの取材で少なからず世話になった高性能ブレーキ&パーツクリーナー、NC-110とNC-111である。ブレーキまわりに付着したアスベスト粉、ギヤオイル、ブレーキフルードなどのオイル汚れを強力に除去。その他にも、色々と応用がきくので、手軽にさまざまな金属部分の汚れをクリーニングすることができる。

TEST CAR

Mercedes-Benz 190E



テストカーの状態

年式	91年式
走行距離	6万3000km

メルセデスは伝統的にフロントカパーやパッキンなどからオイル漏れが見られる。特にテストカーの190Eくらいの年式であれば、オイル垂れ流しの状態でも、まずおかしくない。

本来の使い方



ブレーキパーツに付着した汚れ落とし剤。

ブレーキ系統に付いたアスベスト粉やグリス、ブレーキフルードといったブレーキまわりの汚れ全般を洗浄するものだが、この場合の洗浄力も抜群であることを確認した。

テストアイテムの活用法 1

エンジンルームを丸ごとクリーンナップ。



エンジン全体に油污れが目立つ。
実はエンジンはヘッドオーバーホール済みで、予想に反して過大なオイル漏れは見当たらなかった。しかし、それまではオイル下がりかひどかったとのことで、オイルミストによってエンジンルーム内壁は黒々と汚れていた。

まだエンジンがホットだったこともあって、スプレー式洗浄剤には条件が厳しかったが、そこはNC-110&111、かなりの洗浄力を発揮した。通常のブレーキクリーナーの類であれば、汚れは一瞬溶かすだろうが、その後すぐに乾燥してしまい、汚れのシミがまたその場に残ってしまったに違いない。NC-110&111を吹きかけた部分をウエスで拭き取ることで、念入りにクリーンアップしてみた。

油污れが落ち、キレイになった。
あらゆる場所に、このNC-110&111を使ってみた。ご覧のように黒ずみ（これはオイルミスト汚れ）のあったエンジンルーム内壁はピカピカ。エンジン自体にこびりついたドス黒いオイル汚れもキレイに溶けて流れ落ちた。

逆さにしても使える秘密。



インナーパイプ

このインナーパイプで缶中の液剤を吸い出す。缶を逆さにするとパイプの向きも変わる仕組みだ。

液剤を吸い出すチューブがフレックス式となっており、逆さにすると吸い口がポチャッと液剤の中に浸かるため、どんな状態でも使うことができる。液剤が良く出ない時は、缶を振れば良い。



テストアイテムの活用法 2

ホイールの汚れ落としや工具類の手入れ。



頑固なブレーキダスト落とし。
欧州車のホイールはパッドカスでよく汚れるが、NC-110&111を使えばこんなにピカピカにすることが可能。スプレー式は楽に作業ができるのがいい。

工具類の汚れ落としと手入れ。
油污れにまみれてしまった工具類の手入れにもNC-110&111は使える。シュッとひと吹きするだけで、みるみる汚れが落ちていく。これはちょっと快感。

テストアイテムの活用法 3

アンダーカバーに漏れたオイル汚れの洗浄。



漏れたオイルで黒光り。
これは前々回のテストで使用した300E-24のアンダートレイ。ご覧のように積年のオイル漏れの痕が黒光りしている。この汚れはかなり頑固であった。

汚れが落ち地肌が現れた。
コンパウンド入りの洗浄石鹸をブラシに付けゴシゴシ擦ったが一向に汚れは落ちなかった。ところが、NC-110を使うと、あっという間にピカピカに。

NC-110&111の成分は「特に珍しいものではない」とのことだが、主成分である石油系洗浄成分の濃度を通常より高めとし、希釈成分となるアルコール（速乾性に効果はあまりブレンドしていない。そして効率よく洗浄性能を発揮させるためのブチセルゾールを添加し伸びを強化。秘密があるとするれば、その絶妙な「成分の配合バランス」という。

他のクリーナーでは、汚れが溶けてもその場でまた乾いて汚れに戻ってしまうことがよくあるが、NC-110&111の場合は、汚れを溶かし、乾燥することなく続いて噴射される液剤によって、汚れが押し流され、当該箇所が見事にクリーンナップされる、というプロセスを遂行できる。これも配合バランスの成せるワザなのだ。今回はブレーキまわりだけでなく、もう一つ重要なポイントとして、クリーナー活用法としてさまざまな場所でのNC-110&111の能力を発揮させてみた（詳しくは別項）。

クリーンナップする対象物に近づけて「シューッ」とやるだけで絶大な洗浄効果を発揮してくれた。特にブロック側面の変色したオイル汚れは、これまでの経験からいってたぶん落ちないだろうと思ったほどのひどさだったが、NC-110&111を111をしばらく吹き付けていると次第に素の地肌が顔を覗かせ始め、最後にはピカピカに磨かれたかのようになっていました。この洗浄能力の高さは、普段のストレス発散にももってこいである!? また手の入りにくいデスビまわりや、

さらに驚いたのは、メルセデスの特徴ともいえるエンジン保護コーティングまで落とすことができたことだ。このコーティングは黄色の半透明をした皮膜。エンジン保護という名目があるため、かなり強固な膜を形成しているのだが、古くなると、汚らしい。NC-110&111に付属のノズルを装着し、至近距離からしばらく噴射していくと、この強固な皮膜が剥がれ落ちた。このハイパワーぶり、ちょっと他には見あたらないだろう。あえて苦言を呈すなら、このパワーを手が届かない奥深くまで到達できるような、もっと長いチューブが付属ならさらなる完全クリーンナップが可能なのでは? というところだ。とはいえ、この素晴らしい洗浄力を味わえばしばらくは病みつきになること請け合い。やったものにしかわからないとは思いますが、これは保証しよう。